

2020年(令和2年)10月28日(水曜日)

三島駅再開発

# 市が住民投票条例案 市議会臨時会に提出

三島市議会臨時会は二十七日開会し、会期を三十日までの四日間と決めた。市民団体が豊岡武士市長に、JR三島駅南口東街区の再開発事業の是非を問う住民投票条例の制定を直接請求したことを受け、市は条例案を提出した。審議は総務委員会に付託された。

条例案では住民投票は、投票用紙に「三島駅南口東街区再開発事業についてコロナなどの感染症をふまえて」と選択の前提を示し「都市計画決定を一年延期し、市民の意見を取り入れて見直す」と「現計画のまま進める」の二択で行う。豊岡市長は請求者代表が求めた二択について「どちらの選択肢でも事業を良い方向に導くことはでき

ない」と反対意見を述べた。

議案質疑では市議から、請求者が市民の事業への認知度が低いと指摘していることを受け「説明会など周

## 地下水へ影響「可能性低い」NPOに市が回答

三島市のNPO法人グラウンドワーク(GW)三島が市に提出した、JR三島駅南口東街区の再開発事業の地下水への影響を尋ねる質問状に市は二十六日、「影響が生じる可能性は低い」などと回答した。GW三島の渡辺豊博専務理事は取材に「市の回答は科学的根拠がなく、信用できない」と話した。近く追加の質問状を出す予定。GW三島は事業計画の公

開資料などを地質学の専門家らと精査。事業用地周辺の地下水や湧水への影響が否定できないと判断し、市に質問状を出した。

質問状でGW三島側は、昨春のボーリング調査時に高層ビル建設地点に地下水の観測孔が設けられなかった問題をただしたが、市は「同時期の周辺の地下水水位と別の観測孔の水位変動を整理し、当該地点の地下水変動は評価できる」と回答

知は十分だったか」などの質問が出た。市側は「指摘は真摯に受け止めるが、市民説明会や広報への掲載、イベント会場での周知などで、現時点でできる説明はやってきた」と答弁した。

市長の意見に対する質問に担当部長が答える場面が多く、傍聴席から「なぜ市長が答えないんだ」と怒声が飛んだ。

本会議後の総務委員会で、二十八日に請求者代表六人の意見陳述をする決めた。参考質疑後に市側にも質疑をして、委員会採決をする。(渡辺陽太郎)

(渡辺陽太郎)